

相模原市立公文書館第11回企画展

# 「軍都計画」と相模原



## 展示資料目録

平成30年2月発行

相模原市立公文書館

相模原市立公文書館第15回企画展

# 「『軍都計画』と相模原」 その後

～陸軍機甲整備学校（キャンプ淵野辺）の変遷～



## 展示資料目録

令和元年7月発行

相模原市立公文書館

## 第11回企画展の展示概要

### 陸軍施設の移転

昭和初期、人口3万人が住む広大な原野であった相模原台地に、1937（昭和12）年9月、陸軍士官学校が建設され、東京・市ヶ谷から本科生徒隊が転営してきた。それは前年6月27日の陸軍からの電話連絡で始まった。用地買収交渉から第一期工事完成までわずか1年3か月という突貫工事ぶりであった。翌1938（昭和13）年には臨時東京第三陸軍病院、陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所（のち相模陸軍造兵廠）、陸軍工科学校（のち陸軍兵器学校）が建設され、1939（昭和14）年には陸軍電信第一連隊、陸軍通信学校、1940（昭和15）年には原町田陸軍病院（のち相模原陸軍病院）と、相模原台地一帯には、東京から続々と軍事施設や軍需工場の移転が進み、1942（昭和17）年の陸軍機甲整備学校まで、8つの陸軍施設が建設された。その後、終戦により、陸軍施設の多くが米軍に接收された。一部が返還され、その跡地に公共施設などが立ち並ぶ。陸軍機甲整備学校（キャンプ淵野辺）跡地には、JAXA 相模原キャンパスや市立博物館等が建つ。

### 相模原軍都計画

これに対応するため、1939（昭和14）年9月には、市域北部では相模陸軍造兵廠を中心に、「近キ将来ニ於テ人口十万以上ノ都市ノ出現ヲ見ルハ必至ノ情勢」という、「相模原都市建設区画整理事業」の事業説明が神奈川県議会で行われている。そして、同年12月、2町6か村による「相模原軍都建設連絡委員会」が結成され、関係軍施設や各町村に意向調査を実施し、インフラ整備の要望、各町村から合併の意向が示された。都市計画法を適用し、道路、交通、住宅、商業などを整備し、合わせて、町村の合併協議が進められ、1941（昭和16）年4月29日、2町6か村が合併し「相模原町」が生まれる。現在の市役所周辺の整然とした区画や公園、国道16号の40m道路などはこの当時の区画整理事業によるものである。

### 相模川河水統制事業

また、一方、水の問題では、明治時代から検討がなされ、大正時代に県による相模原開田調査が進められたが頓挫。1933（昭和8）年の農林省による調査結果から、電力開発、洪水調整、灌漑用水、そして給水事業なども行う、「相模川河水統制事業」が1938（昭和13）年1月に神奈川県臨時議会に上程され、相模ダム（相模湖）の建設がはじまる。その陰で旧日連村勝瀬地区全戸約70戸は水没することになった。そして、1942（昭和17）年8月、相模陸軍造兵廠への給水が開始される。

## 第 1 1 回展示資料目録

### 陸軍施設の移転

	資料名	作成年	展示物	出典等
1	陸軍士官学校正門	1930 年代	複写 (写真)	相模原市史「現代図録編」 (相模原市立博物館所蔵)
2	相模原地域の軍事施設一覧	1930 年代	複写	「相模原市と米軍基地」 (相模原市)
3	第二議題 陸軍士官学校本科設置位置に就て	1936(昭和 11)年	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01004137600、陸軍省「蜜大日記」(防衛省防衛研究所所蔵)
4	陸軍士官学校本科候補地調査表	1936(昭和 11)年	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01004137600、陸軍省「蜜大日記」(防衛省防衛研究所所蔵)
5	陸軍士官学校本科候補地地図	1936(昭和 11)年	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01004137600、陸軍省「蜜大日記」(防衛省防衛研究所所蔵)
6	陸軍士官学校敷地予定図	1936(昭和 11)年 7 月	複写	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)
7	陸軍士官学校新設位置に関する 件 決裁文書	1936(昭和 11)年	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01004137600、陸軍省「蜜大日記」(防衛省防衛研究所所蔵)
8	陸軍士官学校状況説明書	1945(昭和 20)年 8 月	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C15010070700、連合軍司令部の 質問に対する回答文書綴(教育) 18/26 昭 20. 8. 30~20.. 9. 8(防衛省 防衛研究所所蔵)」
9	昭和十二年度 相模兵器製造所歴史	1937(昭和 12)年	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C15120218000、C15120218200 昭和 12 年度相模兵器製造所歴史 (防衛省防衛研究所所蔵)
10	陸軍用地買収に関する件	1936(昭和 11)年 7 月	原本	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)

	資料名	作成年	展示物	出典等
11	買収に関する今日までの経過概要 (麻溝村陸軍用地買収について (一部抜粋))	1936(昭和11)年 7月	複写	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)
12	高座郡町村長会長 陸軍士官学校移転の出迎の件	1937(昭和12)年 9月	原本	上溝町「庶務書類」 (相模原市立博物館所蔵)
13	昭和十二年度臨時町村財政特別補給金交付方陳情に関する件	1937(昭和12)年 7月	原本	麻溝村「村会会議録及議決書」 (相模原市立博物館所蔵)
14	村有土地処分の件	1938(昭和13)年 2月	原本	大野村「村会会議録及議決書」 (相模原市立博物館所蔵)
18	陸軍機甲整備学校状況説明書	1945(昭和20)年 9月	複写	JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C15010070500、連合軍司令部の質問に対する回答文書綴(教育)18/26 昭20. 8. 30~20. 9. 8(防衛省防衛研究所所蔵)
19	陸軍士官学校での生活風景 「行幸に輝く陸軍士官学校」	1939(昭和14)年 9月	複写 (写真)	JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C1A06031067800『写真週報第83号』(国立公文書館所蔵)
20	「機械化部隊のお医者さん」 (陸軍機甲整備学校)	1942(昭和17)年 7月	複写 (写真)	JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.A06031082200『写真週報第227号』(国立公文書館所蔵)
23	陸軍士官学校所在地の名称に関する件達 『相武台』と命名	1937(昭和12)年	複写	JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C01005066700、昭和12年「来翰綴(陸普)第1部」(防衛省防衛研究所所蔵)
24	卒業式天覧演習豫行見学に関する件通牒	1939(昭和14)年 8月	複写	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)
25	相模原演習場内野生萱払下願と承認書	1939(昭和14)年 11月	複写	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)
26	陸軍用地買収に伴う耕地喪失者の職業紹介に関する件(昭和11年)及び傭人採用に関し出頭せしめられ度件依頼(昭和13年)	1936(昭和11)年 10月及び1938 (昭和13)年7月	複写	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)
27	拳銃射撃実施の件通牒	1938(昭和13)年 6月	複写	麻溝村「陸軍練兵場関係書類」 (相模原市立博物館所蔵)

	資料名	作成年	展示物	出典等
29	「相武台」の名称濫用防止に関する件	1938(昭和13)年 3月	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C01001673400、永存書類 甲輯 第1類 昭和14年(防衛省防衛研究 所所蔵)
30	陸軍施設使用希望調書 昭和20 年10月 文部省	1945(昭和20)年 10月	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C12121815800、軍需品軍需工場 の処理に関する綴(防衛省防衛研究 所所蔵)
44	陸軍士官学校はその後 (「陸軍施設使用希望調書 昭和 20年10月 文部省」から抜粋)	1945(昭和20)年 10月	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.C12121815800、軍需品軍需工場 の処理に関する綴(防衛省防衛研究 所所蔵)

### 相模原軍都計画

15	議案第十七号 (上溝町都市計画法適用申請)	1938(昭和13)年 6月	原本	上溝町「町会会議録及議決書」(相模 原市立博物館所蔵)
16	相模原都市建設区画整理事業に 関する件	1940(昭和15)年	原本	「相模原区割整理」2BH24-9-143 (神奈川県立公文書館所蔵)
17	相模原軍都建設連絡委員会	1940(昭和15)年	原本	相原村「相模原軍都建設連絡委員会 関係書類」(相模原市立博物館所蔵)
21	議案第一九号 上溝町公営住宅建設の件	1938(昭和13)年 6月	複写	上溝町「町会会議録及議決書(町村 合併関係他)」(相模原市立博物館所 蔵)
22	横浜線運輸能力強化に関する懇 談会	1939(昭和14)年 7月	複写	「相模原軍都建設連絡委員会書類」 県各課 2-2-11 (神奈川県立公文書館所蔵)
28	相模原土地区画整理地区現形並 予定図	1940(昭和15)年	複写 (写真)	(相模原市立公文書館所蔵)
31	相模原軍都建設計画に対する軍 関係関係町村等の意向について	1940(昭和15)年 8月	原本	「相模原軍都建設連絡委員会書類」 県各課 2-2-9 (神奈川県立公文書館所蔵)
32	相模原軍都建設に関する件	1941(昭和16)年	原本	「地方長官会議書類」県各課 1-2-102 (神奈川県立公文書館所蔵)

	資料名	作成年	展示物	出典等
33	相模原町設置関係書類	1941(昭和16)年	原本	「昭和16年 相模原町設置関係書類」県各課2-2-117 (神奈川県立公文書館所蔵)
34	相模原町村概要 資力	1941(昭和16)年	原本	新磯村「相模原軍都計画書類」 (相模原市立博物館所蔵)
35	神奈川県上溝・大野・相原・大沢 都市計画相模原土地区画整理決定の件	1939(昭和14)年 10月	複写	JACAR(アジア歴史資料センター) 昭和14年「公文雑纂」84巻 (国立公文書館所蔵)
36	町村合併についての意見書	1941(昭和16)年 2月	原本	相原村「町村合併に関する書類」 (相模原市立博物館所蔵)
37	陸士前土地区画整理組合設立認可の件	1939(昭和14)年 3月	原本	「昭和21年度 相模原都市計画 陸士前土地区画整理関係(組合施行)」 BH6-887(神奈川県立公文書館所蔵)
38	キャンプ淵野辺の返還後における 跡地利用について(要望)	1970(昭和45)年	原本	歴史的公文書 「キャンプ淵野辺跡地利用」 (相模原市立公文書館所蔵)
39	キャンプ淵野辺跡地への小学校 建設について(要望)	1977(昭和52)年	原本	歴史的公文書 「米軍提供施設の跡地利用書類」 (相模原市立公文書館所蔵)
40	松村長官(県知事)への相模原町 村合併の動向報告	1940(昭和15)年 8月	複写	「相模原軍都建設連絡委員会書類」 県各課2-2-9 (神奈川県立公文書館所蔵)
41	陸軍士官学校からの「相模原軍都 建設に関し配慮相成度件照会」	1940(昭和15)年 8月	複写	「相模原軍都建設連絡委員会書類」 県各課2-2-9 (神奈川県立公文書館所蔵)
42	軍都建設連絡委員会顛末(揺れる 合併の組み合わせ)	1940(昭和15)年 9月	複写	「相模原軍都建設連絡委員会書類」 県各課2-2-9 (神奈川県立公文書館所蔵)
43	区画整理街路 相模原警察署前 十字路から西門方面(後方に米軍 相模総合補給廠)	1968(昭和43)年	複写 (写真)	相模原市史現代図録編 (相模原市立博物館所蔵)
50	軍都建設座談会(東京日日新聞 社主催、昭和14年5月12日)と 神奈川県相模ヶ原開発計画協議 会(昭和14年6月26日)	1939(昭和14)年	複写	図書・刊行物『相模原都市建設事業 参考資料』k316-5.4-2 (神奈川県立公文書館所蔵)



## 相模川河水統制事業

	資料名	作成年	展示物	出典等
45	相模川河水統制事業により水没した旧勝瀬地区の風景	1935(昭和10)年頃	複写 (写真)	(相模原市立博物館所蔵)
46	相模川河水統制事業に関する件伺	1938(昭和13)年1月	原本	「昭和一三年閣省稟申伺関係書」 県各課 1-3-60 (神奈川県立公文書館所蔵)
47	相模川河水統制事業計画説明書	1940(昭和15)年8月	原本	「相模川河水統制事業計画説明書」 郡-6-1K517-0-0024 (神奈川県立公文書館所蔵)
48	昭和十三年度 神奈川県相模川河水統制事業費豫算に関する半井知事説明概要	1938(昭和13)年	原本	「昭和十三年度 神奈川県相模川河水統制事業費豫算に関する半井知事説明概要 K517-0-0025」 (神奈川県立公文書館所蔵)
49	相模川河水統制事業施行許可願	1938(昭和13)年	原本	「相模川河水統制事業関係資料 1」 K517-0-0042 (神奈川県立公文書館所蔵)

## 参考文献一覧

1	相模原市史 現代図録編	2004(平成16)年	原本	[行政資料]
2	相模原市史 現代資料編	2008(平成20)年	原本	[行政資料]
3	相模原市史 現代通史編	2011(平成23)年	原本	[行政資料]
4	相模原市史 近代資料編	2017(平成29)年	原本	[行政資料]
5	津久井町ダム史	1986(昭和61)年	原本	[行政資料]
6	藤野町史 通史編	1995(平成7)年	原本	[行政資料]
7	「地域史」	1990(平成2)年	原本	[図書]
8	湖底への追憶	2007(平成19)年	原本	[図書]

## 第15回企画展の展示概要

### 陸軍施設の移転から終戦へ

広大な原野であった相模原台地に、1937（昭和12）年9月、陸軍士官学校が建設され、その後、臨時東京第三陸軍病院、陸軍造兵廠東京工廠相模兵器製造所（のち相模陸軍造兵廠）、陸軍工科学校（のち陸軍兵器学校）、陸軍電信第一連隊、陸軍通信学校、原町田陸軍病院（のち相模原陸軍病院）、陸軍機甲整備学校（1942（昭和17）年移転）まで、8つの陸軍施設が建設され、相模原は軍都と呼ばれるようになった。戦況が悪化、1945（昭和20）年8月14日に、日本はポツダム宣言を無条件で受諾し連合軍に降伏する意思を示し、翌8月15日正午、終戦詔書の玉音放送があり、同年9月2日、米艦ミズーリ号上にて降伏文書に調印、第2次世界大戦は終了した。

### 陸軍施設の多くは米軍基地（陸軍機甲整備学校はキャンプ淵野辺）に

降伏文書に調印した9月2日付等で接收命令が出され、市域にも米軍が進駐し、旧日本陸軍の諸施設の多くは接收され、陸軍士官学校は「キャンプ座間」に、相模陸軍造兵廠は「相模総合補給廠」に、相模原陸軍病院は「米陸軍医療センター」に、陸軍電信第一連隊の跡地は「相模原住宅地区」に、そして陸軍機甲整備学校は調達要求書第4419号により「キャンプ淵野辺」となった。

### キャンプ淵野辺は

キャンプ淵野辺には、1950（昭和25）年に米国防総省直轄の通信基地である国家安全保障局在日太平洋事務所が新設され、各種アンテナが林立することになった。本市は首都東京のベッドタウンとしての性格を持つようになり、1967（昭和42）年8月には市の人口は20万人を超える。同年の12月13日にはキャンプ淵野辺周辺を（軍用電波を優先する）電波障害制限地区とする米軍要求が新聞報道され、大きな社会問題としてクローズアップされる。これをきっかけに、市内のあらゆる団体による全市的組織の「市電波障害制限地区指定反対実行委員会」（以下「反対実行委員会」という。）が結成され、地域の住民や自治会、婦人会、労働組合等が参加する、本市始まって以来の市民総決起集会で大会決議を行い、指定反対を表明した。市は、県知事・横浜防衛施設局長への抗議や市議会での反対決議、反対署名運動の実施、1万人集会の開催、陳情活動などを行い、1968（昭和43）年4月30日には反対実行委員会が佐藤内閣総理大臣に12万人の署名簿を添えて陳情書を提出した。



## キャンプ淵野辺の返還

反対実行委員会は発展的に解散し、1971（昭和46）年6月、市長を会長とした「市米軍基地返還促進市民協議会」が結成され、同年7月10日、「市米軍基地返還促進市民総決起大会」を開催、米軍基地の早期返還を活動の対象としていくようになる。

また、1972（昭和47）年5月には、相模補給廠を中心として「戦車闘争」と呼ばれる市民団体なども巻き込む形で、修理済の戦闘車両等のベトナム輸送を阻止する運動が展開され、二階堂進内閣官房長官をはじめ、この問題に対する政府への要望等のやりとりの中、問題の終結をとらえる形で、同年11月23日、二階堂長官からキャンプ淵野辺の明年度（昭和48年度）中の返還、返還跡地の無償での地元利用計画への解放等が示された。

1973（昭和48）年5月31日、日米合同委員会でキャンプ淵野辺の返還が決まる。1974（昭和49）年4月1日、「市米軍提供施設跡地利用対策審議会」（以下「審議会」という。）を設置し、米軍提供施設の跡地利用について諮問。同年11月13日、審議会から「キャンプ淵野辺の跡地利用について」の答申があった。同年11月30日、キャンプ淵野辺が米軍から国に返還された（12月12日に返還式）。

## 返還から地元利用への歩み

地元は、キャンプ淵野辺の返還が決まった後、跡地の無償での地元利用を求めてきたが、1976（昭和51）年、国有財産中央審議会は返還財産の国・地元・留保地の有償三分割方式を打ち出し（以下「基準案」という。）、市は基準案の撤回と地元優先利用を求め国会や大蔵省に請願を繰り返す。市の計画ではスポーツ公園施設と教育施設として利用する地元利用の計画をまとめたが、国の承認は得られず、市は緊急性の高い小学校用地の使用を先行して認めることを要求。1978（昭和53）年4月1日、キャンプ淵野辺跡地の地元利用第1号として、弥栄小学校が開校した。

その後1980（昭和55）4月に弥栄中学校、1983（昭和58）年4月に由野台中学校・県立弥栄東高等学校・弥栄西高等学校が開校。そして1987（昭和62）年4月に市立淵野辺公園、ひばり球場、県立相模原球場を新設した。

また、国利用施設として、1980（昭和55）年4月に国民生活センターが、1985（昭和60）年11月、国民年金健康保養センター「さがみの」（2009（平成21）年に解体）が、1986（昭和61）年3月、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館（現在の「国立映画アーカイブ相模原分館」）が完成し、そして、1989（平成元）年3月、小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」で有名の、文部省宇宙科学研究所（現在の「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）」（以下「JAXA」という。））が移転してきた。

また、1978（昭和53）年12月15日、「相模原市立博物館設置要望書」が市長に提出され、1980（昭和55）年4月、市の「キャンプ淵野辺留保地整備計画」に「博物館・美術館などの文化施設の検討」が盛り込まれる。1990（平成2）年11月、国有財産関東地方審議会において博物館建設用地の処分が認められ、1995（平成7）年11月20日、JAXAの前に、「相模原市立博物館」が開館した。

さらに、1998（平成10）年5月には、神奈川県警察学校由野台分校が開設されている。

## 第15回展示資料目録

### 陸軍施設の移転から終戦へ

	資料名	作成年	展示物	出典等
1	軍都計画時代の軍諸施設配置図	1945(昭和20)年 8月	複写	「相模原市史第4巻」折込地図 [行政資料]
2	「ポツダム」宣言受諾ニ関スル内閣総理大臣及び外務大臣報告	1945(昭和20)年 8月	複写	昭和20年「枢密院会議筆記・一、「ポツダム」宣言受諾ニ関スル内閣総理大臣及び外務大臣報告」(国立公文書館所蔵)[特定歴史公文書] JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.A03033831200

### 陸軍施設の多くは米軍基地（陸軍機甲整備学校はキャンプ淵野辺）に

3	連合軍(米軍)部隊の相模原進駐状況	1945(昭和20)年 9月	複写	「相模原市史 現代通史編」 [行政資料]
4	「キャンプ座間」概要、沿革	1974(昭和49)年 3月	複写	「続基地白書(昭和49年3月)」 [行政資料]
5	「相模補給廠」概要、沿革	1974(昭和49)年 3月	複写	「続基地白書(昭和49年3月)」 [行政資料]
6	「キャンプ淵野辺」概要、沿革	1974(昭和49)年 3月	複写	「続基地白書(昭和49年3月)」 [行政資料]
7	連合軍による危害防止に関する回覧	1945(昭和20)年 9月	原本	「昭和20年時局関係綴」 (旧麻溝村文書) (相模原市立博物館所蔵)
8	昭和20年相模原町事務報告 「民主的新日本ノ建設ハ着々トシテ実施セラレツヘアリ」	1945(昭和20)年	原本	「昭和21、22年度町会会議録及び議決書」(相模原町文書)(相模原市所蔵)
9	講和成立後の情勢に対応する相模原町の要望事項	1952(昭和27)年 1月	原本	「日米行政協定に基づく提供施設関係書類(提供施設関係書類)」 (神奈川県立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
10	米軍基地返還、払い下げについての陳情書	1959(昭和34)年 7月	原本	「昭和33年提供施設関係書類綴(相模総合補給廠)」(神奈川県立公文書館所蔵)[歴史的公文書]

## キャンプ淵野辺は

	資料名	作成年	展示物	出典等
11	キャンプ淵野辺周辺における電波地役権の米国側要求	1965(昭和40)年7月	原本	「昭和39、40年度 基地提供及び返還」(神奈川県立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
12	電波障害制限地区指定反対市民集会	1968(昭和43)年2月	複写(写真)	「相模原市史 現代図録」 [行政資料]
13	電波障害制限地区指定反対相模原市民総決起大会開催について(開催通知)	1967(昭和42)年12月	原本	「昭和40年～44年公民館関係綴」(相模原市立博物館所蔵) (今井清氏寄贈)
14	電波障害制限地区指定反対相模原市民総決起大会開催要項案、大会決議案	1967(昭和42)年12月	原本	「昭和40年～44年公民館関係綴」(相模原市立博物館所蔵) (今井清氏寄贈)

## キャンプ淵野辺の返還

15	FAC3080 キャンプ淵野辺の返還後における跡地利用について(市要望)	1970(昭和45)年	原本	「キャンプ淵野辺返還後における跡地利用について(要望)写」【佐々井典比古氏関係資料】さ-7-1-5-2 (神奈川県立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
16	キャンプ淵野辺跡地利用構想図(市案)	1970(昭和45)年	複写	「昭和56年度 キャンプ淵野辺」(神奈川県立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
17	キャンプ淵野辺利用構想図(県案)	1972(昭和47)年11月18日	複写	「キャンプ淵野辺返還に伴う跡地の公園化について(新聞記者発表)」【佐々井典比古氏関係資料】さ-7-1-5 (神奈川県立公文書館所蔵)[歴史的公文書]
18	県と市が計画したキャンプ淵野辺の跡地利用	1989(平成元年)	複写	「相模原と米軍基地」(平成元年) [行政資料]
19	要望書 キャンプ淵野辺の返還後における跡地利用について(大蔵大臣宛)	1970(昭和45)年	原本	「キャンプ淵野辺跡地利用」(相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
20	相模原市米軍基地返還促進市民協議会の発会式の開催について	1971(昭和46)年6月	原本	「46年度米軍基地返還促進市民協議会」(相模原市所蔵)

	資料名	作成年	展示物	出典等
21	市長を先頭にデモ行進(返還促進市民協議会の総決起集会後)	1971(昭和46)年 7月10日	複写 (写真)	「相模原市史 現代図録編」 [行政資料]
22	米陸軍相模補給廠における戦車等の修理に関する抗議について (市議会議長名)	1972(昭和47)年 5月	原本	「昭和46～49年度基地問題特別委員会」(相模原市所蔵)
23	相模補給廠で修理された戦車等のベトナム輸送についての抗議文 (市長名)	1972(昭和47)年 5月12日・18日	複写	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
24	相模補給廠で修理された戦車等のベトナム輸送についての抗議文 (市民協議会長名)	1972(昭和47)年 6月6日	複写	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
25	米陸軍の戦車等の輸送についての質問書	1972(昭和47)年 7月21日	原本	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
26	米軍戦闘車両の輸送についての質問書及び回答の詳細2点(25及び32の詳細)	1972(昭和47)年	複写	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
27	相模補給廠における戦車輸送についての要望(決裁文と要望書)	1972(昭和47)年 8月15日	複写	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
28	相模補給廠から搬出された米軍重車両の調査に当たっていた本市職員への乱暴、逮捕についての抗議文、要求書	1972(昭和47)年 8月15日、17日	原本	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
29	28(8/15、17の抗議文、要求書)の詳細	1972(昭和47)年 8月15日、17日	複写	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
30	兵員輸送車を載せたトラックが西門を出る	1972(昭和47)年 9月19日	複写 (写真)	「相模原市史 現代図録編」 [行政資料]

	資料名	作成年	展示物	出典等
31	キャンプ淵野辺、米陸軍医療センターの早期返還要求	1972(昭和47)年 8月17日	複写 (マイクロフィルム)	「キャンプ淵野辺関係書類」 (相模原市情報公開課所蔵)
32	米軍戦闘車両の輸送について 二階堂官房長官からの回答	1972(昭和47)年 10月5日、14日	原本	「昭和47年度基地対策関係書類(相模補給廠戦闘車両搬送問題)」 (相模原市立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
33	キャンプ淵野辺返還問題について 二階堂官房長官に要請する河津市長(当時)	1972(昭和47)年 11月23日	複写 (写真)	「相模原の基地—よみがえるキャンプ淵野辺」[行政資料]
34	「単なる口約束であり覚え書きはなかったが、政府の責任ある立場の人の発言でもあるため、…」	1976(昭和51)年 2月	原本	「県政調査会 部会記録(総務企画・厚生・警察渉外・企業)」 (神奈川県立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
35	「二階堂官房長官の発言は直接相模原市長に約束しており、…」	1976(昭和51)年 9月	原本	「昭和51年度県政調査会 部会記録」(神奈川県立公文書館所蔵) [歴史的公文書]
36	キャンプ淵野辺の返還についての覚書 (英文—訳文)	1973(昭和48)年 1月	複写 (マイクロフィルム)	「キャンプ淵野辺関係書類」 (相模原市情報公開課所蔵)
37	相模原市米軍基地返還促進市民決起集会	1973(昭和48)年 7月28日	複写 (写真)	「相模原市史 現代図録編」 [行政資料]
38	昭和49年11月26日付け「FAC3080キャンプ淵野辺の返還について」横浜防衛施設局長からの事前連絡	1974(昭和49)年 11月26日	複写 (マイクロフィルム)	「キャンプ淵野辺関係書類」 (相模原市情報公開課所蔵)
39	広報さがみはら 『帰ってきたキャンプ淵野辺』	1974(昭和49)年 12月	複写	「広報さがみはら」1974(昭和49)年12月1日号2面[行政資料]
40	キャンプ淵野辺返還式	1974(昭和49)年 12月12日	複写 (写真)	「相模原市史 現代図録編」 [行政資料]
41	キャンプ淵野辺の跡地処分について要請(有償3分割反対の抗議文)	1976(昭和51)年 6月	原本	「昭和54～57年度基地対策特別委員会」(相模原市所蔵)

	資料名	作成年	展示物	出典等
42	キャンプ淵野辺跡地処分に係る新処理基準案の撤回と地元優先利用実現に関する請願書	1976(昭和51)年10月	原本	「昭和51年度米軍基地返還促進市民協議会」(相模原市所蔵)
43	キャンプ淵野辺跡地利用有償3分割案反対市民決起集会	1976(昭和51)年	複写(写真)	「相模原市の基地 よみがえるキャンプ淵野辺」(昭和57年)[行政資料]
44	相模原市米軍提供施設の跡地利用について(答申)(キャンプ淵野辺)	1974(昭和49)年11月13日	原本	「昭和55年度米軍提供施設の跡地利用書類(米軍提供施設跡地利用対策審議会(建議))(相模原市立公文書館所蔵)[歴史的公文書]
45	キャンプ淵野辺の跡地利用についての要望(スポーツ公園)	1979(昭和54)年3月	原本	「昭和53年度米軍基地返還促進市民協議会」(相模原市所蔵)
46	<u>広報さがみはら</u> 「キャンプ淵野辺の跡地 小学校用地として暫定仮使用」	1977(昭和52)年10月	複写	「広報さがみはら」1977(昭和52)年10月1日号1面[行政資料]
47	キャンプ淵野辺跡地への小学校建設について(要望書)	1977(昭和52)年11月30日	原本	「米軍提供施設の跡地利用書類(キャンプ淵野辺跡地小学校書類)」(相模原市立公文書館所蔵)[歴史的公文書]
48	国民生活センター研修テスト施設建設に関する要望書(市長宛)	1977(昭和52)年11月	原本	「米軍提供施設の跡地利用書類(米軍提供施設跡地利用対策審議会・国民生活センター進出問題書類・キャンプ淵野辺跡地利用(弥栄中学校)」(相模原市立公文書館所蔵)[歴史的公文書]

## 返還から地元利用への歩み

49	全面返還された米軍基地	1989(平成元年)年	複写	「相模原と米軍基地(平成元年)」[行政資料]
50	各基地別陳情の経緯及び市内全基地に関する陳情の経過	1974(昭和49)年3月	複写	「続基地白書(昭和49年3月)」[行政資料]
51	基地返還・共同使用の経過	1995(平成7)年1月20日	複写	「相模原市と米軍基地(平成27年)」[行政資料]
52	キャンプ淵野辺跡地利用図及び跡地利用状況一覧	2002(平成14)年	複写	「相模原市と米軍基地(平成14年)」[行政資料]



	資料名	作成年	展示物	出典等
53	返還第1号として開校した「弥栄小学校」	1978(昭和53)年 9月開校	複写 (写真)	「相模原市史 現代図録編」 [行政資料]
54	留保地の一角に立つ市立博物館	1995(平成7)年 11月20日開館	複写 (写真)	「相模原市史 現代図録編」 [行政資料]
55	キャンプ淵野辺跡地利用構想図	1982(昭和57)年	複写	「相模原市の基地 よみがえるキャンプ淵野辺」(昭和57年)[行政資料]
56	キャンプ淵野辺の現況	2007(平成19)年	複写 (写真)	「キャンプ淵野辺留保地整備計画」 (平成23年)[行政資料]

### 参考文献一覧

	資料名	作成年	展示物	出典等
1	「相模原市と米軍基地」(平成元年、渉外課)	1989(平成元年)年	行政資料	相模原市
2	基地白書(続基地白書・相模原の基地)1970-1982		行政資料	相模原市
3	相模原市と米軍基地	2002(平成14)年 3月	刊行物	相模原市
4	相模原市と米軍基地	2015(平成27)年 3月	刊行物	相模原市
5	キャンプ淵野辺跡地公園基本計画	1974(昭和49)年	行政資料	神奈川県
6	『相模原の基地 特集 よみがえるキャンプ淵野辺』	1982(昭和57)年	行政資料	相模原市
7	キャンプ淵野辺留保地整備計画	2011(平成23)年	行政資料	相模原市
8	相模原市史第4巻	1988(昭和63)年	刊行物	相模原市立博物館
9	相模原市史 現代図録編	2004(平成16)年	刊行物	相模原市立博物館
10	相模原市史 現代資料編	2008(平成20)年	刊行物	相模原市立博物館
11	相模原市史 現代通史編	2011(平成23)年	刊行物	相模原市立博物館
12	相模原市史 現代テーマ編 ～軍都・基地そして都市化～	2014(平成26)年	刊行物	相模原市立博物館